広告特集　企画・制作　朝日新聞社メディアビジネス局
協力　大学ランキング

The Power of University

大学力

大学が果たす社会的責任とは

［朝日新聞 ×「大学ランキング」タイアップ企画］

学部・学科選びのポイント

大学入試改革の詳細については依然議論が続いているが、自分が本当に学びたいことが明確であれば、入試がどう変わろうと学部・学科選びに迷うことはないと語る、「大学ランキング」の杉沢編集長。すでに始まっている大学独自の改革も踏まえ、将来をどう選択するべきか考えてみよう。

学部選びに役立つ 自己分析と社会分析

大学をどう選ぶかは受験生にとって大きな問題ですが、なかなか決め手がない人が多いのではないでしょうか。偏差値やブランドだけで選んだ大学で、入学後に違和感を持ったまま過ごすには、4年という時間は長過ぎます。私は大学選びよりもまず、学びたい学部・学科を考えることのほうが重要だろうと思います。

そのためにやってほしいのが、「自己分析」と「社会分析」です。まず中学・高校時代に夢中になったこと、打ち込んだものを書き出してみてください。それは勉強でも、部活動や趣味でもかまいません。次にそこから得たものと、得られなかったものを書き出してみる。成功体験だけでなく、スポーツでどうしてもライバルに勝てなかった、といった経験も貴重な学びです。そうしたすべてを踏まえたうえで、将来社会人になっても続けたいのはどんなことかを考えてみます。

次に社会分析です。世の中に関するニュースのなかで、自分が他より関心のあることを思い出してみてください。子どもの貧困、日本と外国の関係、食の安全や食糧問題……。何か思い当たるものがあるのではないでしょうか。

そうしてふたつの結果を並べてみると、次第に浮かび上がってくるテーマがあるはずです。たとえば文化祭で、みんなで協力し合ってひとつのものを作りあげたのが楽しかった。そして社会の問題では外交関係が気になる。だから国際協力やコミュニケーションを学ぶのが向いているかもしれない……という具合です。

時代の変化の中で大切な自分の「軸」

実をいえば、私自身はもっといい加減に学部・学科を選びました（笑）。こんなふうにやれば良かったというのは、大人になって仕事の経験を積む中で考えたことです。しかし現代では、どんな有名企業に就職しても一生安泰ということはありません。将来環境が大きく変わったときも、しっかり自分の足で立っているためには、自分のなかに強い「軸」が必要です。18歳、19歳といえばもう大人の入り口ですので、受験という機会に自分自身を見つめ直すことの意味は小さくないでしょう。

私が受験生にこれをすすめるのは、他にも理由があります。現在、2020年度から始まる新たな「大学入学共通テスト（仮称）」に関する議論が続いています。まだ具体的な方式は決まっていませんが、確実なのはこの新しい入試が、思考力・判断力・表現力を問うものになるということです。先ほど紹介した自己分析と社会分析は、自分の考えをまとめ、自分なりの言葉で表現するための訓練にもなります。

2020年度実施ということは、新しい入試を体験する第1号は、現在の中学3年生。高校1年生の人は、現役受験なら現行のセンター試験、浪人すれば新しい試験となるので不安はさらに大きいかもしれません。しかし当然ながら、試験が変わってもこれまでの勉強が無駄になるわけではないので、自分は将来何がしたいのかという原点を忘れてほしくないと思います。入試が変わるから負担の少ない学部を選ぶというのでは、あまりに本末転倒です。

新方式の詳細が固まる前に、すでに新たな二次試験やAO入試など、独自の入試改革を進めている大学も少なくありません。ある国立大学では、受験生にプレゼミナールを受講させ、その後に時間をかけて実験や論文作成に取り組むよう求めるユニークな入試が始まりました。別の私立大学では、「地域貢献」への意思や実績を評価の指標に加えた新たな入試がスタートします。

保護者は自分の時代とは大学入試が大きく変わっていることを理解したうえで、子どもと一緒に知識のアップデートに努めながら、人生の先輩として適切なアドバイスをしてあげてほしいと思います。（談）

朝日新聞出版「大学ランキング」
杉沢誠記 編集長
すぎさわ・せいき／「AERA English」「アエラ大学ムック」「アエラ企業研究シリーズ」などの編集長も兼務。これまで就職情報誌、女性ビジネス誌、ライフスタイル誌などの編集を手掛け、「人と社会」の関わりを見つめてきた。

ご希望の大学のパンフレットが一括で請求できます

■発送について:パンフレットの発送はお申し込みいただいた各学校から直接お送りします。大学によってパンフレットの送付時期が異なることがあります。
■一部の大学については有料の場合があります。お支払い方法はパンフレット送付時にご案内します。
■有料の大学は、右の「掲載大学一覧」の下に送料を記載しています。
■入学願書については直接大学に請求するか、書店などでお求めください。

パンフレットを請求した人のなかから抽選で20名様に「図書カード（2,000円分）」をプレゼント（広告主提供）

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※プレゼントは、廣告社株式会社進学資料センターからお送りします。

応募方法

PC・携帯・スマホで申し込む
PC・携帯・スマホをお持ちの方は下記のURLにアクセスして、画面の指示に従い必要項目を入力してお申し込みください。
■受け付け締め切り　12月31日(日)
http://www.asahi.com/u-power/

電話で申し込む（通話料無料）
TEL.0120-963-460
オペレーターがお応えします。①企画コードをお聞きします。「TK02」とお伝えください。②右の「掲載大学一覧」からご希望の学校コード番号と大学名をお伝えください。③後は送付先など必要事項をお伝えください。※電話で申し込むことで、「個人情報の取り扱いについて」に同意したものとします。
■受付期間　5月29日(月)～6月9日(金)
■受付時間　9:00～18:00

はがきで申し込む
〒100-8693　銀座郵便局私書箱472号
廣告社株式会社　TK02係
①氏名　②フリガナ　③性別　④生年月日　⑤郵便番号　⑥住所　⑦電話番号　⑧在籍学校名　⑨学年　⑩右の「掲載大学一覧」からご希望の学校コード番号と大学名を必ずご記入の上、お申し込みください。※はがきで申し込むことで、「個人情報の取り扱いについて」に同意したものとします。
■受け付け締め切り　12月31日(日)当日消印有効

個人情報の取り扱いについて
パンフレットの請求にあたって登録いただいた個人情報は、廣告社株式会社進学資料センター（以下、進学資料センター）が責任を持って管理します。
●**個人情報の利用目的**　登録いただいた個人情報は、請求した大学のパンフレット発送および各種進学情報の提供の目的で利用します。また、進学資料センターでは、廣告社株式会社が提供する進学情報や進学イベント等のご案内をする場合があります。
●**お申し込み大学への個人情報の提供について**　「大学パンフレット一括請求システム」の利用の際に登録した個人情報は、大学または大学が委託する企業に通知されます（大学が当該資料を送付するため）。
●**個人情報の第三者への提供**　進学資料センターは、前述（大学または大学が委託する企業）の場合を除き、登録いただいた個人情報を本人の承諾なく第三者（データ処理の業務委託先を除く）に開示することはありません。
●**個人情報の開示・訂正・削除**　進学資料センターまでご連絡ください。
●**お問い合わせ先　廣告社株式会社　進学資料センター**
TEL.03-3575-0136　9:30～18:00（12:00～13:00、土・日・祝日を除く）
Eメール odr@kssc.jp その他、詳細についてはホームページ（http://www.gyakubiki.net/prv.html）でもご覧いただけます。

■パンフレットの請求についてのお問い合わせは
廣告社株式会社　進学資料センター　TEL.03-3575-0136
受付時間 9:30～18:00（12:00～13:00、および土・日・祝日を除く）

本日の掲載大学

大学		学校コード番号
慶應義塾大学	★	11580
芝浦工業大学		11670
成蹊大学		11760
千葉商科大学		11340
東京工科大学		12050
東京理科大学		12240
法政大学	★	12411
立教大学	★	12531
常磐大学		10800

昨日の掲載大学

大学	学校コード番号
青山学院大学★	11451
神奈川大学	12590
関東学院大学	12630
駒澤大学	11640
東海大学	11940
東京経済大学	12030
東京国際大学	11120
明治学院大学★	12491
東京家政大学	12010

明日の掲載大学（予定）

大学	学校コード番号
創価大学	11820
拓殖大学	11860
中央大学	11900
日本工業大学	11150
明治大学★	12481
明星大学	12510
早稲田大学★	12570
桜美林大学	11480

［大学パンフレットをさしあげます］
詳しくは本広告特集左側をご覧ください
★がついている大学は送料200円（税込み）がかかります。

発売中!!
お求めは書店またはASA（朝日新聞販売所）で

この広告特集は、朝日新聞デジタル特設ウェブサイトでもご覧いただけます。　http://www.asahi.com/u-power/

TOKIWA

看護学部、はじまる。

常磐大学は、地域が直面する健康課題の解決に貢献できる看護系人材を養成するため、「看護学部看護学科」を、2018年4月に新設（設置認可申請中）します。国立病院機構水戸医療センターと連携し、看護学に必要な知識と技術の習得をはじめ、多様な健康ニーズに対応する柔軟な思考と、チームで協働する力を持った人材を養成していきます。

看護学部2018.4新設

設置認可申請中
学部・学科の内容は予定であり、変更する場合があります。

◆入学定員：80名（男女共学）　◆取得できる資格・免許：●看護師 ●保健師（選択制）【国家試験受験資格】 ●養護教諭一種免許状※（選択制）
※教職課程の開設時期は変更となる場合があります。

OPEN CAMPUS 2017 6.17㊏ 7.23㊐ 8.5㊏

参加費無料・予約不要・入退場自由／詳細は本学ホームページをご覧ください

常磐大学 常磐短期大学

■人間科学部 ≫ 心理学科／教育学科／現代社会学科／コミュニケーション学科／健康栄養学科
■総合政策学部 ≫ 経営学科／法律行政学科／総合政策学科
■看護学部 ≫ 看護学科（仮称／設置認可申請中）
■短期大学 ≫ キャリア教養学科／幼児教育保育学科

お問い合わせ先　〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1　TEL 029-232-0007（アドミッションセンター）　http://www.tokiwa.ac.jp

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局
協力 大学ランキング 広告特集

The Power of University

大学力

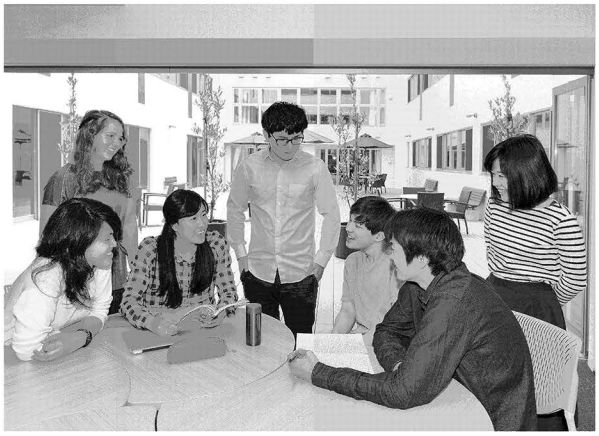
大学が果たす社会的責任とは

慶應義塾大学

KEIO UNIVERSITY

国内外の精鋭が切磋琢磨し 次代を先導する力を磨く

地球社会に貢献する世界水準の教育研究



日吉国際学生寮(横浜市港北区)にて交流する外国人留学生と日本人学生

学問による社会への貢献を目指し、「実学(サイエンス)」の大切さを説いた福澤諭吉。その理念を受け継ぎ、約160年にわたって日本の近代教育をリードし続けてきた慶應義塾はいま、地球社会の課題解決を通じて世界に貢献すべく、国際的かつ学際的な教育研究・人材育成を推進している。

英語(またはその他の外国語)による授業で学ぶ、全学部生対象のプログラム「GIC」(Global Interdisciplinary Course)を昨年より開始。科学・環境など自然科学分野から、貧困・移民・紛争といった社会問題、グローバルビジネス論などのテーマを取り上げ、基礎的な「コア科目」と専門レベルの「リサーチ科目」合わせて400以上もの科目を設置。今年度の履修者はのべ8000人を超えるほどの人気プログラムだ。

また経済学部では、グローバルリーダーたる次代の経済人を育成すべく、4年間の全カリキュラムを英語で学ぶ9月入学のプログラム「PEARL」(Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership)を実施している。定員は国内外から選び抜かれた約100人。能力と意思があれば5年間で学士・修士の学位を取得することもできる。

ほかにも、総合政策学部・環境情報学部では、ICT(情報通信技術)やマネジメント、国際関係など幅広い分野を、商学部では大学院入門レベルの講義科目を、それぞれ英語のみで学ぶカリキュラムを用意。キャンパスにいながらにして、留学しているかのような厳しい状況下で自らを鍛えていけるというわけだ。

今後は、300を超える海外有力大学とのネットワーク、国内トップクラスを誇る28件のダブルディグリー・プログラムもさらに拡充。世界水準の教育環境を国内外で整備し、国際社会の第一線で活躍できる人材を育成していく。

留学生と共に暮らす国際学生寮を増設

未来のグローバルリーダーを育む場は、キャンパス内にとどまらない。慶應義塾ではいま、外国人留学生と日本人学生が共に暮らす混住型の国際学生寮を次々に新設している。

今年3月には、国際学生寮「日吉国際学生寮」(横浜市港北区)がオープン。さらに来年3月には、「元住吉国際学生寮(仮称/川崎市中原区)」と「綱島SST国際学生寮(仮称/横浜市港北区)」がそれぞれ完成する。これにより慶應義塾大学の学生寮は計10件となる予定。

慶應義塾の学生寮の歴史は長く、1937年の日吉寄宿舎の創設以来、先輩後輩などの立場を超えて互いに学び教え合う「半学半教」、自らの良識と信念に基づき行動する「独立自尊」といった理念を実現する、大切な教育の場として位置付けられてきた。

世界各国から多様なバックグラウンドを持つ学生が集う今日、そんな学生寮の担う役割はより一層大きくなっている。寝食を共にし、多様な文化・価値観に日常的に触れる、勉学に共に励み、幅広い視野のもと国際感覚を磨く、時にぶつかり合うことも人間関係を調整・修復する格好の訓練となるはずだ。こうして育まれた友情は、将来のグローバルな人脈形成の一助にもなるだろう。

実際に、施設や設備の充実度、アクセス、安全面などはもとより、「日常的な国際交流がしたい」という理由で入寮を希望する声は多い。国内外の優秀な学生の意欲に応えるべく、慶應義塾は今後も国際学生寮の拡充を進めていくことからどんな人材が世界へと羽ばたいていくのか、期待が高まる。

三田キャンパスにあるグローバルラウンジ。様々な国籍の学生が集まり、異文化交流を図る場所となっている

伝統と進化の慶應義塾

慶應義塾塾長 長谷山 彰

慶應義塾は、1858(安政5)年に福澤諭吉によって創立された日本で最も古い近代的高等教育機関の一つであり、民間有志の協力によって経営される義塾の伝統を守りながら成長してきました。

21世紀の基調であるグローバル化の中で生き残るためには、世界標準に適合すると同時に個性をもつことが必要です。慶應義塾の個性は、世の中の流行に惑わされず、主体的に世の行く末を考えることのできる独立自尊の人材を社会のさまざまな分野に送り出し、「民」の力による日本の近代化に貢献してきたことです。

「学校は人にものを教えるところにあらず。ただその天資の発達を妨げずして、よくこれを発育するための具なり」(文明教育論)。福澤諭吉が主張した通り、時代の転換期には知識を習得するだけではなく、予想外の事態を乗り切る突破力を備えた人材が必要です。変化の激しい21世紀に世界で活躍できる独立自尊の人材とは、未知の課題に遭遇した時に問題の本質を見極める洞察力や、解決法を発見できる創造力を備え、さらに異文化を理解し、違いを乗り越えるコミュニケーション能力と、民族や宗教を超える普遍的な倫理観を備えた人材です。

このような人材を育成するためには多様な学びが必要であり、近年、慶應義塾では、さまざまな国際プログラムを開発してきました。海外協定校との交換留学プログラム、ダブルディグリー・プログラムが多数用意されていることが特色です。また、国内からも多様な人材が集まる開かれた大学をめざして、地方出身者を対象とする「学問のすゝめ奨学金」や、思考力・コミュニケーション能力を評価する新しいタイプのAO入試を実施しています。慶應義塾の自由な気風の中、多様な学生が多様な学びを体験することで、世界で活躍できる独立自尊の人材が育つと信じています。(本年5月28日就任)

TOPICS 1 Keio by the Numbers 世界レベルの教育・研究を推進

300+ 海外協定校数:300以上

10th アジアで最もイノベーティブな大学:10位 ※2016 Thomson Reuters

28 ダブルディグリープログラム数:28

70+ 海外卒業生ネットワーク(三田会):70以上 ※国内卒業生ネットワーク(三田会):800以上

TOPICS 2 世界に冠たる国際研究大学へ「KGRI」を文理融合研究の拠点に

2014年、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学(タイプA)として採択された慶應義塾大学。それを受けて、昨年11月、「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)」を設置。現代社会が抱える課題に対応した「長寿」「安全」「創造」という三つの文理融合クラスターのもと、世界の大学と連携しながら、最先端の学際的な研究を進めている。

TOPICS 3 2020年、英国チーム事前キャンプ地に 日吉キャンパスにて、計13種目受け入れ

2020年、慶應義塾大学は、横浜市・川崎市とともに、英国代表チームの事前キャンプを受け入れることを決定。2020年7・8月に、日吉キャンパスの記念館や陸上競技場、綱島体育館を中心に、アーチェリー、フェンシング、近代五種競技、バドミントン、体操競技、卓球、バスケットボール、柔道、テコンドー、ボクシング、空手、ウエイトリフティング、ホッケーの計13種目を受け入れる予定。研究・教育・歴史・文化・芸術などスポーツ以外の分野でも交流を深め、地域・国際社会へ貢献していく。

慶應義塾は、1858年の開塾以来、
創立者・福澤諭吉の理念と志を受け継ぎ
歩み続けてきました。
福澤の時代と同様、
激動する変化の時代でもある現在も
道を切り開いています。

慶應義塾大学

大学
文学部 経済学部 法学部 商学部 医学部 理工学部
総合政策学部 環境情報学部 看護医療学部 薬学部

大学院
文学研究科 経済学研究科 法学研究科 社会学研究科 商学研究科 医学研究科 理工学研究科 政策・メディア研究科 健康マネジメント研究科
薬学研究科 経営管理研究科 システムデザイン・マネジメント研究科 メディアデザイン研究科 法務研究科(法科大学院)

慶應義塾広報室
03(5427)1341
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局
協力 大学ランキング
広告特集

The Power of University

大学力

大学が果たす社会的責任とは

芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

世界に貢献する理工学人材が育つ スーパーグローバル大学

海外体験プログラムが学ぶ意欲を引き出す

日本人学生がともにロボットの基板をのぞき込み、英語と数式、身ぶり手ぶりも交えたディスカッションが白熱する。海外協定校や企業と2週間のプログラムで専攻に応じた課題に取り組むグローバルPBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）のワンシーンだ。参加した学生は、世界の学生との協働に手応えを感じ、コミュニケーションに自信を得ていく。芝浦工業大学にはこうしたグローバルPBLのほかにも、多彩な留学プログラム、短期語学研修、海外インターンシップ、海外ボランティアなど、海外体験の機会がふんだんに用意されている。

「日本の産業界はすでにグローバル化しています。これからの理工学人材は、いろいろな国の人と協働することが必須になるでしょう」と村上雅人学長は言う。2014年には私立理工系で唯一スーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、世界水準の大学となる道を見据えた。これは村上学長が掲げる“世界に学び、世界に貢献する”グローバル理工学人材の育成を再確認する作業でもある。採択後3年を経て、日本人学生の留学経験者数、海外からの留学生数は年度ごとの事業計画の目標値を超えている。

日常的な海外交流は授業だけではない。学内には「グローバルラーニングコモンズ」という場が設置され、学生スタッフが留学生をサポートし、交流イベントを開催している。世界各国の学生たちが理工系という共通点を持って集い、活発に意見を交わす。楽しげなその熱気は周囲にも広がっていく。

これらの取り組みは、27年の創立100周年に向けたCentennial SIT Actionの一部でもある。10年でアジア工科系大学のトップ10入り、そして理工学教育日本一を目指す。この日本一とは、村上学長いわく「学生が大学の教育によってどれだけ成長したかを大切にし、常に学生の学修成果を把握しつつ、そして、読み書きそろばん」の基礎、各専門分野の知識の修得と、その活用ができる能力に加え、グローバル社会で活躍できる社会人基礎力を有する人材育成を目指します。なによりも、教職員が学生の学びの心に火を灯すことが大切と考えています」。

研究室に世界各国の学生が集い、議論する

「Maybe this electrode…」「Well, let's try.」。文化的背景や価値観も異なるベトナム人学生と

最先端の解析装置や計測機器を使い、実験を行う

共同研究で身につく社会に貢献する価値

理工系大学で大事なのは、世界レベルの研究分野を持つ学生が最先端の研究に触れることだろう。「Centennial SIT Action」では、研究ビジョンとして①産学共同研究の推進の研究拠点環境の整備③研究成果拡大の3点を重点方策としている。これを実現するために「芝浦型ERC（Engineering Research Center）」という産学連携の枠組みを構築した。「ERCは「目標を明確にして実用化を目指す研究チーム」です。企業が協力し、学生を含むさまざまな分野の研究者が参画して組織化します。研究そのものが教育となって学生の実践力は飛躍的に向上します」と村上学長。

テーマは医療や介護、ロボット技術、省エネルギーなど社会のあらゆる課題に及び、大学の使命である社会貢献とイノベーションの創出を果たしていく。さらに芝浦工業大学が発起人となり、国際機関や民間企業、国内外の大学と協力するために立ち上げたCPI（Global Technology Initiative）コンソーシアムも積極的に活用して、国際共同研究も増やす見込みだ。

また、その一方で地域連携プロジェクトも進めている。「地（知）の創造拠点は、学生が自治体や地元企業と交流し、共通の課題に取り組むなど、まちづくり、ものづくりを通じた人材育成。世界の最先端研究と、地域連携はいわば車の両輪です。教育にはそのどちらも必要です。最終的にそれが融合するのが理想だと思います」

スピーディーな改革で工科系大学をリードする

「廃炉のためのロボット技術コンペ奨励賞」「日本建築材料協会優秀学生賞」など、芝浦工業大学の学生は学外のコンクールやコンペで続々と実績を生んでいる。学内でも毎年、学生が企画・立案したプロジェクトに最大50万円が支給される「学生プロジェクト」への応募が盛んで、課外活動を奨励する雰囲気がみなぎる。村上学長もその成果を喜び、「賞を取る達成感だけでなく、計画を立て、仲間と役割分担をして試行錯誤をするという過程で学生は著しく成長を得ています。周囲の学生にも刺激を与えるので、大学も積極的に支援しますと言う。

活気があり開かれた大学像は、日本の工科系大学をリードしている。それは、ダイバーシティ先進校を目指す環境整備にも体現される。多様性はイノベーションの基であるという学長主導の方針が浸透し、女性教員の数も飛躍的に増えた。女子学生は現在全学生に対して約15％の数だが、これも30％に増員していく目標だ。

芝浦工業大学の取り組みは文部科学省から評価され「私立大学等改革総合支援事業」のカテゴリーである「教育の質的転換」「地域発展」「産業界・他大学等との連携」「グローバル化」のすべて選定された。全タイプ選定は4年連続になる。バランスよく、効果的な改革を進める決断の速さと実行力が学生にとって快適な学習環境を作る。

「SIT（芝浦工業大学）の10年後はSIIT（International）が加わるイメージを描いています。グローバル化も男女共同参画も、実は日本社会がまだ対応できていない部分。大学が変わることで、日本全体を刷新していけるのです」と村上学長。次の10年の波はこのぶれない知と技術の拠点から生まれるのだろう。

空き家を改修し、地域コミュニティ創出を目指す学生プロジェクト

TOPICS 1 短期留学プログラムを複数用意
春夏の長期休暇で海外経験を積む

本格的な半年以上の留学に加え、学生それぞれの語学力や海外経験に合わせた各種短期留学を用意している。16年度はこれらのプログラムを活用し、1,000人を超える学生が海外留学を経験した。

グローバルPBL	1～2週間	海外の学生と数人のグループを作り、実践的な課題の解決に取り組む。一緒にリサーチやディスカッションを行う中で、問題解決能力を効果的に向上させる。
工学英語研修	1～2週間	エンジニアとして求められる「工学英語」を重点的に海外の大学で学ぶ。研究室や現地の工場訪問も実施。
短期語学研修	1ヶ月	海外の大学に通いながら集中的に英語を学ぶ。ホームステイや友人との寮生活を通して、現地の文化や習慣を体験。

TOPICS 2 学習環境の整備を推進
製図室棟および総合グラウンドが完成

より良い学習環境に向けて、豊洲キャンパスに製図室棟「アーキテクチャープラザ」と、大宮キャンパスに人工芝の「総合グラウンド」が竣工。製図室棟は、17年4月より豊洲キャンパスで4年間を学ぶ「建築学部」開設に合わせて建設された。さらに留学生や留学希望者などの交流場所である「グローバルラーニングコモンズ」を大宮に続き今年度より豊洲でも運用を開始した。

以前の2倍以上の面積になった「総合グラウンド」

TOPICS 3 実践的な学びによる確かな就職実績
2016年度就職率 過去最高97.9％

16年度の就職率*は97.9％と私立理工系大学でトップクラスを誇っている。堅実な実績を残していることから、「仕事に強い大学」として評価されている。

※就職率:就職希望者1,539人のうち、就職が決定した者1,507人の割合

●2016年度就職先企業ランキング

	〈総合〉	(人)		〈女子〉	(人)
1	東日本旅客鉄道(株)	31	1	(株)竹中工務店	5
2	東海旅客鉄道(株)	24	2	積水ハウス(株)	4
3	本田技研工業(株)	22	3	大和ハウス工業(株)	3
4	積水ハウス(株)	12		凸版印刷(株)	3
	(株)竹中工務店	12		旭化成ホームズ(株)	3
	日本発条(株)	12	6	東京電力ホールディングス(株)	2
7	(株)SUBARU	11		(株)IHI	2
8	東京都特別区	10		本田技研工業(株)	2
9	大和ハウス工業(株)	9		鹿島建設(株)	2
	東京都庁	9		東京都庁	2

技術で、世界に挑め。

OPEN CAMPUS 2017 10:00-16:00 ※予約不要・入退場自由
8/6(日)〈大宮キャンパス〉 8/19(土)・20(日)〈豊洲キャンパス〉

工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部・大学院［理工学研究科／工学マネジメント研究科］

2017年芝浦工業大学は創立90周年を迎えます

芝浦工業大學
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 Tel.03-5859-7100 / 入試課

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局
協力 大学ランキング
広告特集

The Power of University

大学力

大学が果たす社会的責任とは

成蹊大学

SEIKEI UNIVERSITY

自奮自発の精神を磨き上げ「社会をつくる」人材を育成

学園本館は池袋から吉祥寺に移転した1924(大正13)年に建てられた。樽も同年に植樹

独自の教育フレームで専門性と協働力が向上

新緑がきらめく欅並木の先にある、赤レンガを基調にした校舎、絵画のような風景のなかを、学生たちが談笑しながら歩いていく。緑豊かな東京・武蔵野にキャンパスを持つ成蹊大学は4学部10学科編成で、およそ8000人が学んでいる。

成蹊大学の特徴は、1912(明治45)年の「成蹊実務学校」創立時から掲げられている「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」を軸に据えた、豊かな人間教育と専門性の高い学術教育にある。100年以上前から個性を重視するための少人数教育を貫いており、伝統的に教員と学生の距離が近い。在学生、教職員、卒業生が、成蹊らしさを語るときには必ずと言っていいほどアットホームな雰囲気という声が上がる。これには全学生が4年間同じキャンパスで過ごすことも、大きく影響しているだろう。北川浩学長はこの利点を生かし、学部を超えた融合教育の拡大と深化を目指しているという。

「本学は伝統的な少人数教育と掘り下げ型のカリキュラム構成によって、秀でたディシプリン(専門分野)を持つ人材を育成してきました。今、社会が直面する課題は一つのディシプリンだけでは立ち向かえない複雑なものばかりです。多様な価値観に触れるための学び、そして異なる専門性を持った個人がアイデアを出し合って課題解決にあたるための実学プログラムを用意しています」

社会と世界を見据える実学プログラムが多数

学部融合型教育の代表格が、5年前に北川学長自らが立ち上げた「丸の内ビジネス研修」、通称MBTだ。40人ほどの学生が参加するプログラムで、6・7人を1グループとして学部横断のチームを編成し、企業が提示した課題に解決策を提案する。課題提示から成果発表会まで、約8月かけて議論や検証を重ねていくため、学生は大いに成長するのだという。これまでに取り組んだ課題は「ロボット普及時代の働き方の提案」「丸の内のエリアマネジメント」「グローバル視点での紙素材活用に関する見通しの策定」など、ジャンルは様々だ。

かつてはキャリア支援センター所長を務めた北川浩学長

チーム編成後すぐに始動する学内準備研修では、ビジネスマナーや自己PR演習をはじめ、ビジネス討論の基礎となる論理的思考や作図型思考、事業活動の管理手法であるPDCAサイクルなどを学ぶ。複数の研修講座を担当し、学生たちのプレゼンテーションを現場で見守っている北川学長は、プログラムへの手応えを年々強めている。

「企業担当者からの健闘をたたえる声に加え、協力企業の数を増やしていることや課題の難度が上がっていることが大きいですね。人口減や技術革新などをにらんだ企業の存続に関わるリアルで複合的な問いかけが増えてきました。産学連携プロジェクトとしても、より大きな意義を果たすものになればと思います」

MBTは上級年次に挑戦できる大学の看板を背負ったプログラムであることから、学生の注目度も高い。選考はオントリーシート、面談、ディスカッションと実際の就職活動に近いプロセスで進められる。こうした仕組みを取り入れることで、選ばれた学生はもちろん、選考外となった学生にも大きな刺激をもたらすという。

「就職活動の下地となりますし、主体的な活動の舞台を求めてまった、別のインターンシップに参加する学生もいます。これは創立者・中村春二の教えである自奮自発の精神そのものです。一人ひとりに気づきをもたらすと、学びにつながる自発的な活動をきちんと後押しすること、そういった仕掛けを学内の様々な分野で取り入れることが大切なのです」

全学部対象の仕掛けも多数ある。1年次におよそ100人が参加する海外短期留学の「サマースクール」、2年次の成績優秀者80人を選抜する「成蹊国際コース」、ボランティア活動を企画した学生の取り組みを助成する「成蹊大学社会活動支援奨学金」などだ。人数制限による競争原理の導入、一人ひとりへのサポート。この両軸で学生のモチベーションを高め、「社会づくりに寄与する人材の成長を促す。

ゼミ・研究室では発表や議論を通して相互に学び合い専門知識を修得する

段階型キャリア教育と個別対応での就職支援

成蹊大学はキャリア支援にも注力している。基盤になるのは体系化された1年次からの「キャリア教育科目」だ。段階型演習が特徴で、グループワークなどを取り入れた「キャリアプランニング」、自身の持ち味を生かした働き方を考える「キャリアセミナー」、各業界のリーディングカンパニーから講師を迎えて多角的に分析する「日本企業の現状と展望」と、理解を深めるための体制を整えている。

1年次から利用できる個別相談システムも大きな特徴だ。学部別に担当職員を配し、資格取得、インターンシップ、求人企業の紹介、面接対策など、学生の悩みや要望に合わせてアドバイスする。激動する社会への船出は、安穏や静けさとは縁遠いものになるだろう。だからこそ大学で学ぶ意味があるのだ、と北川学長は語る。

「本学の教育は不確実な社会に本気で立ち向かうためのものです。意欲に満ちた受験生の皆さん、自分と社会、二つの未来について成蹊大学とともに考えてみませんか」

自分らしさを発揮しながら、社会で活躍するために――。成蹊大学は、未来の担い手に確かな学びをもたらしてくれる。

マンツーマンのキャリア支援は同じ職員が継続して担当する

TOPICS 1 丸の内ビジネス研修(MBT)
産学連携の人材育成プログラム

学部横断で編成されたチームが「企業が提示した課題への解決策の提案」「インターンシップ」などに取り組むプログラム。約8カ月かけ、歴史的に成蹊学園とのつながりが深い三菱系企業をはじめとする多くの企業の協力で実施される。学生は積極的な発言で主体的に携わることはもちろん、他者と協働して課題を解決することの大切さを学ぶ。協賛企業は約20社。

毎年11月下旬に東京・丸の内で開かれる「成果発表会」

TOPICS 2 成蹊国際コース
理解力・発信力・提案力を磨く

学部横断型の特別コースとして開設。全学部からおよそ80人を選抜し、2年次以降各学部の科目と並行して英語を基本とした特別プログラムを受講。コアとなるのは課題発見やリサーチ、発表を段階的に取り入れるゼミ形式の授業「Independent Study」。このほか思考法やプレゼンテーションなどスキルに焦点をあてた授業も多数。

グローバル社会に必要な語学力と思考力を少人数授業で高める

TOPICS 3 情報図書館
多様な学修スタイルに対応

ガラス張りの吹き抜けで採光性に優れた開放的な空間が広がる図書館は、学生に人気の高い施設の一つだ。南北の開架書架を取り囲むように閲覧個室「クリスタルキャレル」が設置され、静かで快適な自学自習の環境が整えられている。一方、アトリウム中空に浮かぶグループ閲覧室「プラネット」は、通常の音量での会話が認められており、授業のほか学生の自主的なゼミ学習にも利用されている。

成蹊高等学校卒業生の建築家 坂茂氏が設計

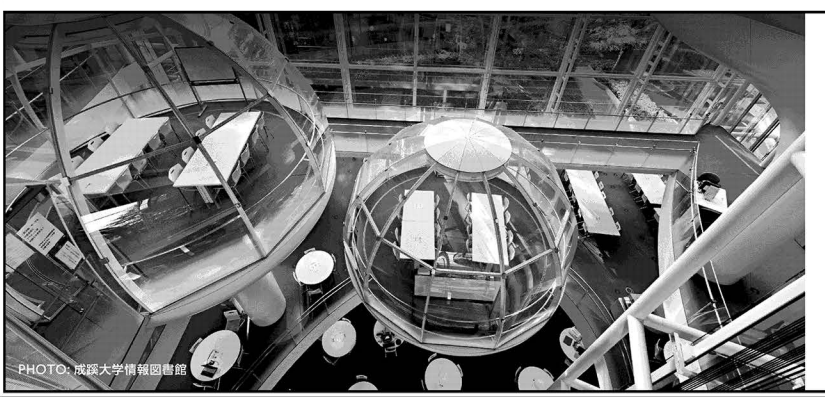


PHOTO: 成蹊大学情報図書館

100年以上にわたって続く「個性尊重の人間教育」。その教育理念を受け継ぐ成蹊大学では、一年次からゼミを中心とした少人数教育を実践。また、全ての学部が集うワンキャンパスという特徴を活かし、学部の枠を越え協働して学ぶ少人数の融合教育を推進。学生一人ひとりと向き合うきめ細かい教育で、幅広い教養と深い専門知識を備えた“未来社会の担い手”を育てています。

OPEN CAMPUS

8/5(土) 8/6(日) 10/1(日) 11/19(日) 大学祭期間中

開催時間:10:00〜16:30(16:00受付終了) ※10/1(日)のみ 10:00〜15:30(15:00受付終了)

SEIKEI 成蹊大学
経済学部 | 法学部 | 文学部 | 理工学部

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
TEL.0422-37-3517(成蹊学園企画室広報グループ)
http://www.seikei.ac.jp/university/

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局
協力 大学ランキング 広告特集

The Power of University

大学力

大学が果たす社会的責任とは

千葉商科大学

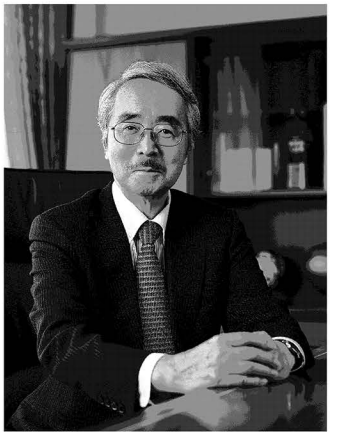
CHIBA UNIVERSITY OF COMMERCE

社会科学系の総合大学として地域に貢献する教育研究拠点をめざす

高い倫理観を持つ「治道家」を育てる

会計学を基礎とする実学教育の伝統、武士道の精神に基づく人間教育。そして、工学の博士号を持つ学長の存在。一見するとどう関連するのかわからないこうした要素が、ユニークな調和を生み、古い常識にとらわれず、新しい教育を切り拓いている千葉商科大学の特長だ。

「武士道というのは、うそをつかない、約束を守る、卑怯なことをしないといった倫理観のこと。それはさまざまな商行為においても決して忘れてはいけない態度・姿勢です」。原科幸彦学長は、創設者・遠藤隆吉の思いをそう代弁する。



2017年3月1日、第8代学長に就任した原科幸彦学長・工学博士・東京工業大学名誉教授。

前身の巣鴨高等商業学校が設立された1928年といえば、世界恐慌の起こる前年。好景気のなかで倫理にもとる商売が横行し、それを憂えた文学博士の遠藤は、商業道徳の教育が必要なことを痛感したという。「明治時代の日本では、訪れた外国人がみな驚くほどの高い倫理観が保たれていました。当時の日本で、何が社会の規範になっていたか。その答えを英文の名著『Bushido』を書いた新渡戸稲造は武士道精神に求めました。遠藤博士も同じ考えです」

そうして、学問においては社会に役立つ実学を、人間形成においては「治道家（大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸問題を解決する高い倫理観を備えた指導者）」の育成を基本理念とする学校が誕生した。戦後の学制改革で4年制大学となって以降は、商経学部に加え、2000年に政策情報学部、その後、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を相次いで開設、社会科学系の総合大学として、来年創立90周年を迎える。その間、信頼される有為の人材を輩出し、現在も1300人以上の社長がいる。

「情報通信技術が高度に発達した現代では、商行為とは単に店頭でお金と商品を交換することだけでなく、世界中を対象としたさまざまな形態のサービスを指すようになっています。また福祉や地域づくりエネルギー政策などを考えるうえでも、費用対効果という視点を抜きにはできません。『商』という概念そのものが時代とともに変化するなかで、千葉商科大学の学びも大きく広がってきました」

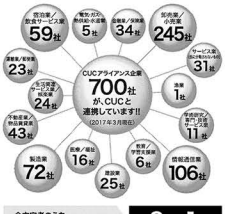
新体制のもと始まるプロジェクトプラン

東京工業大学名誉教授でもある原科学長は、以前から技術者倫理の授業で武士道精神について教えていたという。「私の専門であるイバクトアセスメント（開発行為などが及ぼす影響の事前評価）は、会計監査と似たところがあります。データは常に『まかしようのない事実を示すはずですが、実際は専門家がどちらから光を当てるかによって『色』を変えることも可能です。だからこそ、治道家を育てるという本学の理念は、複雑な現代にこそ意義があるといえるでしょう」

今年3月の就任会見で、原科学長は四つの学長プロジェクト・プランを打ち出した。一つ目は「アカウンタブルな経済社会システム構築（会計）からアカウンタビリティー（説明責任）へ」を合言葉に、情報化社会に対応した透明性の高い会計学の構築をめざす。

二つ目は「CSR研究と普及啓発」。CSRとは、企業の社会的責任だが、本来の意味は企業の行動様式を環境や社会への影響を配慮したものに変えていくことで、ビジネス倫理や政策倫理が問われる。ESG投資や融資における環境社会配慮など、広義のアセスメント研究、社会的責任の視点からの新しい大学ランキング指標の開発やエンカルグップ開発なども行う。

三つ目の「安全・安心な都市・地域づくり」は、大学の所在地である市川市国府台地区の恵まれた地形を生かした防災への貢献。また近隣の大学や病院を含むコンソーシアムの形成により、医療・介護・福祉等に貢献する。地域資源を生かしたまちづくりや安全な地域交通システムの形成などにも多様な主体と連携しながら支援を行っていく。



全内定者のうちCUCアライアンス企業内定者 約3人に1人!!

同大の採用・キャリア教育に積極的な企業群「CUCアライアンス企業」ネットワーク

四つ目の「環境・エネルギー」は、日本の大学として初となるネット・ゼロ・エネルギー・キャンパスへの取り組みだ。これは、大学の施設でつくられた再生エネルギーと学内で消費するエネルギーを同量にして、電力と熱を自給自足でまかなうというもの。この実現により、大学を拠点として、市川市を地域分散型エネルギー社会のモデルとする。そして、小規模エネルギー事業者の起業支援や持続可能な経営支援にも取り組み、千葉商科大学を地域分散型エネルギー社会形成の核とすることをめざす。学生による再生エネルギー会社の起業も視野に入れ、全学規模で動き出している。

「本学の良き伝統を発展させながら、持続可能な社会づくりのために、教職員と学生が一丸となってアクティブ・ラーニングを行い取り組んでいきたいと思います」

幅広い知識・教養と正直さを併せ持つ人に

実学教育の目的は、社会に有用な人材を送り出すこと。千葉商科大学では、国内700社以上の企業とアライアンス（提携・同盟）協定を結び、学生たちの就職を強力にサポートしている。このCUCアライアンス企業は、学内における企業との交流イベントやインターンシップ受け入れなどに全面協力し、卒業生の約3人に1人はCUCアライアンス企業からの内定を得ている。

また起業家マインドを育てるため、学生たちが企業と提携して商品の開発・販売を行う株式会社を学内に設置する計画だ。

異文化交流や海外体験のプログラムも豊富だ。現在、世界33大学との連携協定を結び、交換留学や海外語学研修を実施。さらに、カフェにいるようなリラックスした雰囲気でネイティブスタッフとの英会話を楽しめる「CUC International Square」や、海外の学生たちを数十人規模で招待する「CUCサマープログラム」など、学内にいながら常に「世界」を意識する環境が用意されている。そして、中国・上海の国立大学とのダブル・ディグリープログラムもある。

「こうした幅広い体験を通して得られる知識・教養は、将来指導者として正しい判断を下すために不可欠です。しかし私は、それだけでは十分ではないと思っています。明治の初め、日本に進出する足がかりを築こうとしていた諸外国は、日本の役人たちが賄賂に賄賂を受け取らないので驚いたといいます。私利私欲よりも自らの倫理に従う正直さ、まっすぐさ。それがあって初めて、知識も意味を持ちます。この大学でぜひ、そうした生き方を学んでほしいと思います」

TOPICS 1 「やってみる、という学び方。」
全学で取り組むアクティブ・ラーニング

千葉商科大学では、学生の主体的学習によって知的成長を促す「アクティブ・ラーニング」を全学で実践している。こういった教育の質向上の取り組みは、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業（タイプ1）」に2年連続で選定された（2015・16年度）。

こうした教育の成果は卒業生に占める経営者や起業家の多さとしても現れており、帝国データバンクの全国社長分析（2017年）で、千葉商科大学は日本の全大学中上位6%（※）に入る実績を上げている。

※帝国データバンク全国社長分析（2017年）社長の出身大学（2016年出身大学判明）で779校中48位にランクイン。

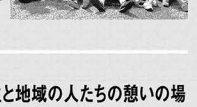
TOPICS 2 地域貢献への取り組み
地域と市民に役立つ大学をめざして

2008年から、地元市川市と地域活性化・人材育成を目的とした包括協定を結び、「地域密着型大学」として地域に根ざした教育・研究・社会貢献に全学的に取り組んでいる。多様な公開講座やセミナーのほか、社会人の学び直しニーズに対応した「履修証明プログラム」の開講、地域志向の研究を支援する助成金制度も設けている。地域の大学としての社会貢献を重視する取り組みは、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業（タイプ2）」として選定されている。

TOPICS 3 アジアへ、そして世界へ
多彩な国際化の取り組みを強化

アジアの発展を支える人材を育てるため、上海立信会計金融学院（中国）との間でダブル・ディグリープログラムを締結。両大学の学位を4年間で取得することができる。

また「CUCサマープログラム」をはじめとする異文化体験プログラムにも毎年多くの学生が参加しており、多彩な取り組みは文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業（タイプ4）」に選定されている。



TOPICS 4 学生と地域の人たちの憩いの場
The University DINING

学生や教職員はもちろん、地域の人たちのコミュニティスペースとしても活用されている学生食堂「The University DINING」。日本を代表する建築家をはじめ、新進気鋭のクリエイターやカフェブームの仕掛け人たちがつくりあげた空間は、2015年度グッドデザイン賞、第22回（2015年度）千葉県建築文化賞優秀賞（一般建築物の部）、日本不動産学会2016年度（第23回）業績賞を受賞するなど高く評価されている。

地域志向
と
グローバル志向
新しい2つの学部

国際教養学部
「世界で働く、世界と働く、世界をもてなす。」
幅広い教養と、コミュニケーションに必要な語学力を身につけ、
国際社会で本当に使えるグローバル人材の育成。
写真：入学式直後に全員が出発する海外研修「海外フレッシュマンキャンプ」

オープンキャンパス 2017
10：00～15：00（9：00受付開始） 予約不要 入退場自由
6/18(日) 7/9(日) 23(日) 30(日) 8/20(日) 27(日)
6/18(日) スペシャルプログラム 一般参加可能（先着順）
「母と娘のロングキャリア戦略」
保護者と一緒に考えるこれからのキャリア
講演テーマ
「10年後、仕事・結婚・出産・育児で困らないために、今から知っておくべきこと」
講師：常見陽平（国際教養学部専任講師）
［主なプログラム］
・大学概要説明
・学部説明・保護者説明
・体験授業・学食体験
・キャンパスツアーなど
そのほかの日程でも保護者向けプログラムなど、特別企画を開催予定。申し込み方法など、詳細はWebで。
CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce
商経学部／政策情報学部／サービス創造学部／人間社会学部／国際教養学部
お問い合わせ 〒272-8512 千葉県市川市国府台（こうのだい）1-3-1
［入学センター］TEL.047-373-9701 info@cuc.ac.jp